

表4-4 その専門能力を、これから特に保健師が習得すべき優先順位の高い能力として挙げた理由
(特に優先順位1について)

優先 順位 1	優先 順位 2	優先 順位 3	記述内容
			①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③、住民の力量を高める能力 ④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
①	②	③	健康課題を持つ人間を支援するのに必要だから
①	②	③	公衆衛生の理念に基づいて、地域全体の健康ニーズをきちんと把握することが最も基本と考える。
①	②	③	地域全体の健康を保障する視点が重要と考える。公衆衛生の視点から健康危機管理の役割をとる職種と考える。
①	②	③	専門知識、技術(公衆衛生の理念と活動)に基づく地域全体の健康と幸福を考えていく必要性。
①	②	④	今後の県 保健福祉事務所の役割と考えるから
①	②	④	住民を見る力がなくては、保健師の一步は進まないと思うから
①	②	④	保健所の機能として今一番求められている能力であり、公衆衛生看護を実践する上で個や地域のリスクマネジメント、サービスの質の担保、監視は重要に思う。
①	②	④	保健所業務の中で、健康危機管理が大きな位置を占めるようになってきた。
①	②	④	障害・病気の有無、年齢、立場、人種等に関係なくQOLを高められるよう、様々な人たちとの協同により支援することは、保健師の基本的な役割と考えるため。
①	②	⑤	地域全体を見る看護の専門職としての立場から、保健師の重要な役割と思うから。
①	③	②	健康危機管理や地域の社会資源の活用、住民相互の共助意識の再認識には不可欠な能力と考える
①	③	②	まずは、公平な視点(正しく物を見る視点)が必要と思う
①	③	②	「住民の健康」は保健師が最も専門性を発揮できる分野だから。
①	③	②	活動の基本だから。根本だから。
①	③	④	保健師の専門性が最も生かせるもの
①	③	④	県の保健所保健師役割だと思う。
①	③	⑤	保健活動は成果がみえにくく、行政の中では軽視されがちなため。
①	③	⑤	住民の安全、幸せを視点に仕事を行うことが基本
①	③	⑤	災害や新興感染症などの健康危機状況の勃発が頻繁で社会的に大きな問題となっているため。
①	④	②	公衆衛生看護の基本であるから
①	④	②	地区診断等活動の根拠を明確にしないで取り組みやすい活動をしてきた事も多かったため、住民の理解も得づらい状況があったように思える。
①	④	③	情勢に合致した専門能力を学問として位置づけるよう、現場のサポート体制が重要。
①	④	③	①は健康、幸福の基本は安全、安心の確保であり、公衆衛生の基本と考えるから。
①	④	③	行革の中でもとすれば方向を見失い、安易な方に流れるが、①は行政の役割であることをここであらためてひとりひとりが認識しなければならない
①	④	⑤	公的機関に所属する専門職の果たすべき役割を考える。
①	④	⑤	公衆衛生についての考えなど大切と思う。
①	④	⑤	公衆衛生活動の基本と考えるから
①	⑤	②	保健師の教育背景、時代の変化(要請)に対応が必要
①	⑤	②	①基礎となる力のものだから
①	⑤	②	保健師だからできること
①	⑤	②	活動基本、理念を常に問いながらの活動が問われている為
①	.	.	公衆衛生活動の原点と思うから
②	①	③	行政として何に取り組むにしても、住民の生活実態の中から2-1)を行うことが基本になると思うので。
②	①	③	民間委託が多くなってくる中で、地方公共団体としての方針、政策を施策することが重要だと考えます。それがなければ“丸投げ”の状態になってしまいます。
②	①	③	②については、①③④⑤の能力の上に成り立つ能力と考える。
②	①	③	住民が健康に幸福に生きるために、一番反映されるものと考えられるから。
②	①	③	政策に結びつける能力は他の項目をクリアする必要あり。
②	①	③	公的な立場だからこそ求められる能力だから。
②	①	③	行政に働く保健師であることから
②	①	③	①を発揮するためには②が不可欠である。また、保健師ならではの②と考えている。
②	①	③	限られた予算でいかに効率良く事業をこなすかが求められているため。
②	①	③	行政で期待されている能力である。
②	①	③	保健師活動に対する社会的に広
②	①	④	新興感染症等、新たな健康危機管理への対応が必要となる。法の改正に伴い、施策の見直しや方向転換が求められているため。
②	①	④	2の中には、4の要素も含まれると思う。存在の意義を見出すには必要
②	①	④	自治体で働く職種としては②は獲得するのが必須。

優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3	記述内容
			①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③、住民の力量を高める能力 ④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
	②	④	国民の健康への指向は高まっているが、施策と乖離している部分がある。
	②	④	今までは特定の個人や集団への働きかけが中心であったが、今後は地域全体をみていく能力が必要である
	②	④	専門的能力の習得は、個人の学習意欲で対応できると思うが、1, 2については関係者との連携が必要。
	②	⑤	業務が煩雑となり予算が縮小される中、保健師自身が事業の必要性や成果を整理し、効果の高い出来を展開することが求められるため
	②	⑤	保健師活動は国の政策(法律)により活動が左右され変化する。地域に何が今必要であるのか政策的な考えが必要
	②	③	① どの自治体も財政難でいかに少ない予算で効果的に成果をあげられるかが問われており、そのために重要なのが、政策であると考えから。
	②	③	① 限られた予算、人員の中で、健康ニーズが多様化し増大している。そのような状況で健康過程の把握とスクラップ&ビルドが求められ実現可能な政策を企画していくことが必要となる
	②	③	① 2. 生活の場での活動の中から、住民の必要としている社会資源の想像や政策は導き出される。
	②	③	① 上記に同じ。加えて、政策能力を身に付ける機械は、学校や就職後の業務に於ても少なく、保健師の苦手とされる分野ではないかと思うため。
	②	③	④ 事業に追われながらの日々で地域の実態把握、地域課題を施策につなげていく視点が弱くなっている。
	②	③	④ 専門性を確立することは基本(あたりまえ)であり、それをもって存在感を示すことが必要。
	②	③	④ 住民の価値観が多様化し、又、財政状態が厳しくアウトソーシングも進む中、これから習得が必要になる
	②	③	④ 住民の力(行動変容)のベースとして、政策(事業)をどうつくり上げるかということが重要と考えるから。
	②	③	④ 自分の現在の立場からいえば、政策にかかわっていくことが一番重要。これにより住民の健康な生活に反映させていく
	②	③	④ 行政に働く保健師の独自機能であるため
	②	③	④ 特にリーダー的保健師に求められる能力だが、実践の機会が少ない。
	②	③	④ 一般的に保健師が苦手とする分野であり、これから特に必要な能力と思われる。
	②	③	④ 公衆衛生活動として等必要である
	②	③	④ 市町村合併後、特に政策として健康づくりをきちんと説明できなければ、保健師の必要性がなくなってしまう危機感があるため
	②	③	④ 今後、保健活動はアウトソーシングが多くなることが考えられ、行政保健師はこれまでより政策力が問われるから。
	②	③	⑤ 緊縮財政で保健師の人数が限定されるなか、政策に創意工夫が要求される。
	②	④	① 今まで、事業や施策は立案してきたが、政策という視点で活動することができていなかったため
	②	④	① 本市においては地域特性(区単位)を大切に行政に力を入れはじめています。これまで市統一的だった活動に独自性を持たせるために本市においては2かな?と考えました。
	②	④	① 地域保健に携わる行政の保健師は政策立案のできる能力の向上が必要
	②	④	③ 個々の事例にとどまらず地域社会全体に働きかけができなければ地域の健康度は高まらないため
	②	④	③ 住民のニーズやダイヤモンドを把握できる立場にあり、それらを活かすために必要
	②	④	③ 特に②④についてはこれまでにない厳しい財政事業にあつて、地域の住民の健康に責任を持つ専門職としての保健師が、活動の必要性や政策、社会資源創出の必要性をきっちり認識し、必要な手立てをとる能力を獲得していく必要があると思うから。
	②	④	③ 行政保健師としてこれから力をつけていきたい分野と考えるから。
	②	④	③ 事業化するためには政策につなげる能力が必要である。
	②	④	③ 行政で働く保健師にとって政策化、資源化していくことは大切。
	②	④	③ 今までの研修等で特に不足だと思う
	②	④	③ 地域全体の健康度を上げるために必要だから
	②	④	③ 財政難の中、スクラップ&ビルドの必要性が高いため。
	②	④	⑤ 各分野の全体像を最も把握しているのは、保健師であると思われ、政策や社会資源の創出に反映させることにより、より安定的な市民サービスにつながると考えるため。
	②	④	⑤ 求められている能力であるが、地域のオリジナリティの政策提案が難しい
	②	④	⑤ 5つの専門能力すべての強化が必要であるが、行政保健師が担う役割を考えると、2.以外の能力を高めながらも最終的には保健師活動が政策と結びつくための能力をより強化することが求められている。
	②	④	⑤ 多様化する業務の中で、自分の置かれている立場で何を優先しなければいけないか政策形成能力を高める
	②	④	⑤ 住民の力量を高める能力については今まで実施してきたが、政策に向けての企画力に乏しいため
	②	④	⑤ 政策に関わることが専門性発揮につながる
	②	⑤	④ 保健師は住民の声を政策に活かすことのできる専門職種だから。
	②	⑤	④ 政策課題は必ず「これでよし」という訳でなく新たな課題が時代とともにできてきている。
	②	⑤	④ 「現在の国勢・社会を見極める能力」
	②	⑤	④ 政策が打ち出せなければ、何も始まらないから

優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3	記述内容
			①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③、住民の力量を高める能力 ④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
②	⑤	④	従来、専門職としての活動を展開してきましたが、今後は住民に真に必要な保健事業を地域として取り組むために政策に反映させ実践していく能力とそれを見極める能力が必要と考えます。
②	⑤		②⑤看護職の中で日本での保健師としての固有機能と考える場合必須要件
③	①	②	行政主導の時代ではなく住民主導の時代だと思います。個人のプライバシーを尊重しつつ住民が自ら活動できるよう援助していかなければと思います。
③	①	②	“自らの健康は自らの手で守る”という基本を踏まえて。
③	①	②	住民が自から参加して地域づくりを考えていくよう支援していくことが大切。
③	①	④	実践からの住民実態やニーズを核とすべきなのが専門能力と思うので。
③	①	④	①③は保健師(行政)が住民と協働で地域づくりをすることで、一方的なサービスでなく、住民力を高めることであり、それが保健師の役割だと思うから。
③	①	⑤	保健師としてこれら能力が基盤にあって、その他の能力も発揮できると思います。
③	①	⑤	住民のパワーを活用することが必要である
③	②	①	住民協働のまちづくりをするため
③	②	①	特に私の市に弱い分野である。
③	②	①	地域住民の主体力は、大きいと思うから。
③	②	④	住民参加による健康な町づくりにおいては、住民の自主活動を引き出し、地域社会を活性化させる能力が必要。
③	②	④	地域保健活動の目標は豊かな地域作り、町作りである。目標達成のためには③が最も重要である。
③	②	④	受診率、検査データだけを見るのではなく、法律に振り回されず、住民の持っている能力を評価できることが重要と考えるため。
③	②	④	③自分がやってしまうことよりも困難であるが大切なことだから。
③	②	④	③地域住民の健康づくりのために保健師活動の目標を見いだしている。
③	②	④	活動のベースである
③	②	⑤	地域住民が力を結集し、地域の課題を解決する力をつけることが個の実現や健康の維持、向上につながるから
③	②	⑤	住民自らが参加し自分の健康や暮らしを向上する能力をつけることが重要。そのサポートをするべきと思う。
③	④	①	直接的な保健サービス及び地区診断能力は保健活動を展開するうえで基盤となるものであるから。また、最近の新任者の状況から、特にこれらの能力を確実に獲得することが必要と感じる。
③	④	①	住民の力抜きでは変革期を乗り越えることはできないと思うため。行政の限界を感じています。
③	④	①	今後は上から指導・助言では全くダメ。住民自らが納得し、健康の為実行していくことが大切であるから。
③	④	①	その地域に生活している人たちの力が発揮できる人づくりが重要と考えるから。
③	④	①	コミュニティ力がこれからのまちづくりに大きく影響するから
③	④	②	住民・地域への支援が基本だから。
③	④	②	何よりも住民自らが主体的にどうありたいかを考えつつ健康づくりを推進する力を持つことが大切
③	④	②	超高齢社会においては、行政サービスでは対応できない。インフォーマルサービスが多くあるとQOLも高まるため
③	④	②	これからの健康づくりには住民の力を最大限に発揮してもらうことが大切だと思うから。
③	④	②	③行政だけでは何もできない。住民が主役に。④保健師の活動でこれが出来たということを見せないと、保健師の数が減少する。
③	④	⑤	地方分権が推進され、予算も充分でないなかで、市民の健康づくり、母子保健を推進するためには、市民の力量を高め行政機関などと連携を深め、多角的に取り組むことが必要である
③	④	⑤	予算がなかなかつかない中で住民に力をつけてもらうしかない。
③	④	⑤	多くの職種(コメディカル等)が活躍している今、保健師の役割として必要と考えると思う。
③	④	⑤	③は住民の自己健康管理能力を高めることが、保健施策の目的であり、保健師はその活動の中心であると考え
③	⑤	①	個別支援の目標を含め、対象の力量を高めるのが保健師の役割と思う
④	①	②	地区の健康課題をどうとらえ、何を何のためにすべきか見極める必要がある
④	①	②	今、行政保健師として働いており、特にとりまく環境が大きく変化している。その中で特に④を強化し他の人に理解してもらい力が必要。(特に本庁で働いているので思うのかもわからない)
④	①	②	行政保健師の必要性を上司に根拠を基に訴えて理解してもらう必要があるから
④	①	②	プレゼンテーションの必要性
④	①	③	保健師活動を広く理解してもらい、効果的な活動を展開していくために必要
④	①	③	従来の保健師活動は、他の職種や上司に理解してもらうことがうまくいっていないため、自己満足の活動になってしまっている。
④	①	③	④が不足しているため保健所の活動が見えにくく、価値が認められにくい。予算を獲得し、新たな事業を実施していくためにもこれからますます重要
④	②	①	④の能力を高めることで住民や行政内部に対しての説得が出来②を推進することが可能
④	②	①	現状として、多くの活動に保健師は期待されているが、保健師の取り組んだ活動成果を第三者(他者)に認められていない。
④	②	①	どんなにすばらしい活動も、必要や成果を理解してもらえなければ次のステップへ進むことが難しくなるから。

優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3	記述内容
			①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③、住民の力量を高める能力 ④活動の必要性和成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
④	②	③	いろいろな活動の基礎となるから
④	②	③	周囲へ見せる能力は、今後の行政のなかで保健師の業務・立場を確立していくために特に重要
④	②	③	住民を支えていくためには活動の成果をみせて必要性を理解してもらう能力が必要
④	②	③	限られた財源の中で、効率的、効果的な事業を展開する必要があるため。
④	②	③	地域課題のために、保健師の好みや得意分野で活動を優先させてしまう傾向があるのでは!!
④	②	③	他職種や行政内部、住民を納得して協力体制を作るには、しっかり問題を分析した上でわかりやすく表せることが必須と思うから。
④	②	③	健康づくりの成果は、なかなか数量的にも表しにくく、周囲からも理解され難い。専門的な活動内容と成果を積極的にアピールしていき、してもらうことが大切だと感じている
④	②	③	説明責任が問われるようになり、理解と納得を得る必要がある。
④	②	③	今までの保健活動を、論理的に評価し、今後の活動に活かしていくため。
④	②	⑤	根拠をもとに必要性を示すことで、住民や関係者の協力や主体性も得られるから。
④	②	⑤	①は保健師の仕事がきちんと評価されず、①②の能力を発揮できにくい状況にあるため
④	②	⑤	与えられたものをマニュアル的にこなすのではなく、ねらいをもち戦略的に有効な方法を意識した活動をすべきである。
④	②	⑤	住民の健康の保持増進という公衆衛生の目的を達成する為には、活動の必要性和成果を示し、関係者や住民の協力を得なければ達成に繋がらない
④	②	⑤	事業の必要性を上司、他部門関係者住民に理解を得るために客観的に説明できる能力が最重要と考えます。①や③の能力はかなりもっていると思われる。
④	②	⑤	②④は保健師が論理的、客観的に業務を実施し、行政内部及び外部へ表現するために必須だから。
④	②	⑤	活動自体は何らかの根拠に基づき必要性があると判断し実践されている状況にあると思うが、他者にその根拠・必要性・成果をわかるように傍観的に資料化することが不足していると考えている。
④	②	⑤	スペシャリストが地域には多数存在。保健師として役割を明確にする必要あり。
④	②	⑤	業務量が多すぎて、日常の活動に振り回されるが、本当に必要な活動を見極めて、それを目に見える形でアピールしていくことが必要と思う。
④	②	⑤	④②⑤。実施した業務活動を評価し政策に結びつけるのには、全てを必要と思われるから。
④	③	①	他職種、地域住民にいかん保健師の活動を理解してもらうかがキーポイントと思う
④	③	①	事業化するにあたり予算化するために必要。また公衆衛生的効果を判定するには時間がかかる。
④	③	②	行財政改革の保健事業の存在が問われている。
④	③	②	行政担当者の自己満足な活動に終わるのではなく、町民サイドに立った活動を、効果を示し実施
④	③	②	誰のために、何のために、どんな方法(手段)で活動するか。その成果まとめは必要であるから。
④	③	②	何の為に必要かという根拠がきちんとしていないといけな。評価を見せることが上手でない。
④	③	⑤	医療制度改革により、保健師活動がアウトソーシングされる流れがあるため
④	③	⑤	保健師が社会的地位を確立するために。
④	③	⑤	保健師が、自信を持って活動する根拠になるから。
④	③	⑤	実践していくことを根拠に基づいて見せることをしていかないと専門性が活かされない
④	⑤	①	アウトソーシングの流れが強まる中、行政保健師の役割を明確にする必要があるから。
④	⑤	②	根拠に基づく活動が基本ではないかと思い、④を選択した。
④	⑤	②	職場での他職種への業務への理解と評価をより得るため
④	⑤	②	行政や制度改革の流れの中で保健師自身がその必要性を語ることが必要。
④	⑤	③	住民の人に活動の必要性、成果が説明で切れれば住民自身も自分自身にも力量につながる
④	⑤	③	活動の評価が、社会に認められる重要な要素と考えられるため
④	⑤	③	各課・係に保健師が分散する活動をしている。地域の情報と活動をどのように結びつけるか。
④	⑤	③	保健師のやっていることを最大限公表し、理解してもらうことが大事である。
④	.	.	自分達で良い仕事をしたと思っても周囲から理解されない
⑤	②	③	保健師自身に専門能力がなければ何もできないから。
⑤	②	③	広域的専門的活動を目指していくとしているため、より専門とは何かを確立していく必要がある。
⑤	②	④	保健師の対人、(住民、関係者etc)援助能力の専門性
⑤	②	④	専門性を示すことで、役割をはっきりとさせることができ、アピールできるので
⑤	②	④	保健師は何でも屋の印象が強いためなんでもやらされる。それがプラスでもありマイナスにもなっているから。
⑤	②	④	災害時対応において、保健師の能力が有効であったが、組織内等において認識が定着していない
⑤	③	②	多くの地域で働く看護職がいる中で保健師としてのアイデンティティーの確立が必要
⑤	③	②	以前は行政の中では専門職は保健師のみで、何でも頼りにされてしてきたが、現在では庁内も地域にも他職種が活動するようになり、保健師が自分たちの専門性を明確にし、活動していかないといけない。
⑤	③	④	5, 3, 4, 2, 1 事務は優秀な人が多いが、専門職としての認識が薄い。

優先順位 1	優先順位 2	優先順位 3	記述内容
			①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③、住民の力量を高める能力 ④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
⑤	④	①	これらの業務は保健師のみで実施するのではなく組織の一員として実施します。その中で保健師の専門性をどのように出すかが求められています。
⑤	④	①	保健師活動が福祉や介護等の多様な部分まで拡大したので、保健師同士の連携と他職種へのアピールが必要
⑤	④	①	日本国民に力がつき、健康についても職能がその分野について深く勉強すべき
⑤	④	②	保健師が組織(職場)の中で分散されているため個としての能力が求められている。
⑤	④	②	保健師の専門性が外部に伝わりにくいため、活動に対する理解が得られにくい。
⑤	④	②	従来保健師活動では、アイデンティティーをたもてないので
⑤	④	②	専門能力がまず
⑤	④	②	専門能力の確立が他の4つの能力発揮の根底をなすものとする。
⑤	④	③	健康フロンティアなど最近の地域保健の動向
⑤	④	③	保健福祉分野を担う多職種チームの中で保健師の専門性が明確とはいえない状況にある。
⑤	④	③	開発する意欲、熱意が必要
⑤	④	③	従来の現場教育では教育できにくくなっているため。
⑤	.	.	現場においては個々の保健師の能力、考え方に格差があると感じる。早急な能力確立システムの必要性を痛感している。

表5 5つ以外に「今特に強化が必要」と考える保健師の専門能力として記述があった内容

☆各専門能力を構成する内容や細項目を強調していると考えられるもの

	件数
①住民の健康・幸福の公平を護る能力	
社会病理を見抜き、個人の健康被害に至らないまでの対処能力	1
個別及び地域全体へのサービス提供をアセスメントする能力	1
民間保健サービス事業等のサービスの精度管理(総合的な質の管理より一歩踏み込んで)	1
健康危機管理(感染症、テロ、自然災害等)	4
②住民の力量を高める能力	
人としての住民を理解すること	1
自立支援を促す手法	1
ヘルスコミュニケーション能力	1
地域住民、他職種との協働	1
住民へのアプローチとして意識を変える＝行動変容を促す為の働きかけについて(個々の行動を支援)は他の職種と大きく異なる点だと思います。様々な科学的な根拠をもとに、いかに支援するかを技術として高めていく必要があると考えます。	1
技術行政の必要性(地域の関心や小さな取り組みの案を認知する支援)住民ニーズに応えたサービスの展開	1
③政策や社会資源を創出する能力	
企画立案能力	4
政策開発能力	3
地域の課題を見極めそれを事業化する視点(統計だけでなく、住民との関わりから課題を挙げる)	2
予算のしくみを理解し、有効な活動を予算化(事務化)していく能力	1
必要性があつて現在不足しているシステム作り。	1
今何が必要かの判断とスクラップできる力	1
改革の中での先見性	1
新たな保健課題への積極的な対応	1
④活動の必要性と成果を見せる能力	
調査研究能力(データ分析、まとめる能力)	7
情報処理・分析能力(地区診断、疫学的視点、統計)	6
評価能力(政策、保健計画、事業、活動)	6
地域の健康課題をとらえる能力	2
地域診断能力(データ分析、管理等。統計処理能力)	2
総合的に物事をみて、何が優先課題か見極める能力	1
目標から総合的に物事を考える能力。	1
科学的知見の活用	1
プレゼンテーション能力(説得力のある説明)	5
必要な情報を集めデータ化しプレゼンテーションする能力	2
人を説得する話術(対話の能力)	1
⑤専門性を確立・開発する能力	
人材育成・指導能力(後輩等へ)	3
需要と教育的な視点の能力	1
地域看護師の認定のようなもの	1
自己の能力開発能力(看護専門技術、難病・精神等地域看護専門技術等)	4
新しい知識獲得(保健指導に必要な知識)	1
職域の拡大により、その場その場で求められる専門能力が異なる	1
コーチング	1
保健師活動に対する意欲と姿勢を高める	3
保健師活動の基礎となる「公衆衛生」とは概念、理念の修得(再教育)	1
保健師基礎能力	1
誰のための仕事をしているか理解すること	1
☆①②③に共通して含まれ、活動を進める前提や基盤となる能力と考えられるもの	
ヘルスプロモーションの理念にそった地域づくり(住民の健康づくりに対する意欲向上への継続的な働きかけ)	2
公衆衛生看護の視点で地区を視る力	2
住民の声を聞き出す・行政へ伝える能力	2
住民1人1人の健康課題を地区の課題として捉える能力	1
住民の側の立場から取り組める地についた活動の為の地域の情報収集。	1
地域住民のニーズに精通。	1
看護技術	1
看護力	1
実践能力	2

地域活動能力	1
地区活動の時間が徐々に少なくなっている。現場業務をしっかりとできることが重要	1
保健指導の能力	1
感染症予防や精神保健福祉等の専門分野に関すること。	1
精神障害者への緊急対応と人権を配慮した処遇への対応能力	1
介護保険の新体制と、高齢者への介護予防能力	1
体の変化を細胞レベルで理解する	1
個別支援能力(コーディネート、アセスメント、ケアマネジメント等)(保健医療福祉の視点、家族全体を見る力等)	6
個別支援に関わるニーズの把握	1
家庭訪問を重視し、行動する能力	1
処遇困難事例への支援力(他機関・他職種との連携を含む)	2
個および集団、地域のアセスメント能力(データ分析、課題抽出力)	2
個人・家族・集団・地域への対人支援能力	3
ケアマネジメント、ケースマネジメント能力	2
マネジメント能力(関連性の再構築)	1
マネジメント能力(個々の事例、地域全体)	2
カウンセリング能力	2
コミュニケーション能力(特に若い人:1件)	7
個別、集団支援におけるコミュニケーション能力(人により添い、相手の気持ちを動かす能力は必要)	1
対人関係能力(対話、受容、人間理解等)	3
Plan/Do/Seeの能力(家庭訪問等の活動を展開する保健師の主体性をもったPlan/Do/See)	1
業務分担による個別の課題を家族・地域の問題として捉える能力	1
事象の変化、変遷、活動のプロセス等の記録管理・能力	1

調整能力(関係機関、関係者、関連部署、部下上司、自治体間、各種施策・計画間)	13
総合調整力	1
調整、マネジメント能力	2
組織や資源のコーディネート能力(点と点、線と線、平面にとどまらず立体化、構造化する能力)	1
連携能力(関係機関、関係者、関連部署等)	8
ネットワーク構築能力(関係者等)	1
多職種と協働する能力	3
チームワーク(専門職間の役割・機能・限界の理解、関係づくり)	3
社会資源開発能力	2
ケアシステム形成能力	1
制度等の変化を知り保健師活動と結びつける能力	1
看護管理能力	1
マネジメント能力	2
行政能力(行政保健師として、政策決定過程、組織論、法律解釈・活用等)	8
基本的行政の事務処理管理能力	1
人事管理能力	1
組織・業務管理	1
事業管理、経営管理	1
事務的業務も増大しているため業務能力	1
経済的視野を理解する能力。	1
コストの削減	1

豊かな人間性	3
専門分野に偏ることなく、広い視野での思考力・判断力を持つこと	2
基本的能力(責任感、協調性、判断力、倫理感)	1
協調性	1
精神力	1
接遇	1
他人(市民等の)から自分がどのように見られているかを察する力(常識的な服装、態度が備わっている)	1

表6-1 今までに自分がこの5つの専門能力を十分習得したと思うか

1そう思う	2少し思う	3どちらともいえない	4あまり思う	5そう思わない	1そう思う	2少し思う	3どちらともいえない	4あまり思う	5そう思わない	平均	標準偏差
4	75	76	60	9	1.8	33.5	33.9	26.8	4.0	3.0	0.92
人										%	
n=224											

表6-2-1 今まで5つの専門能力を十分習得したと思うか(所属別)

	1そう思う	2少し思う	3どちらともいえない	4あまり思う	5そう思わない	合計	平均	標準偏差	有意確率
本庁	人 0	11	14	12	1	38	3.1	0.850	
	% 0.0	28.9	36.8	31.6	2.6	100.0			
政令市等	人 1	21	19	16	2	59	2.9	0.918	
	% 1.7	35.6	32.2	27.1	3.4	100.0			0.127
保健所	人 2	31	24	18	1	76	2.8	0.880	
	% 2.6	40.8	31.6	23.7	1.3	100.0			
市町	人 1	12	19	14	5	51	3.2	0.980	
	% 2.0	23.5	37.3	27.5	9.8	100.0			
合計	人 4	75	76	60	9	224	3.0	0.915	
	% 1.8	33.5	33.9	26.8	4.0	100.0			

KruskalWallis検定

表6-2-2 今まで5つの専門能力を十分習得したと思うか(経験年数別)

	1そう思う	2少し思う	3どちらともいえない	4あまり思う	5そう思わない	合計	平均	標準偏差	有意確率
20年以下	人 0	8	25	19	2	54	3.3	0.763	
	% 0.0	14.8	46.3	35.2	3.7	100.0			
21年以上	人 4	32	37	28	6	107	3.0	0.971	0.001
30年まで	% 3.7	29.9	34.6	26.2	5.6	100.0			**
31年以上	人 0	34	13	12	1	60	2.7	0.857	
	% 0.0	56.7	21.7	20.0	1.7	100.0			
合計	人 4	74	75	59	9	221	3.0	0.917	
	% 1.8	33.5	33.9	26.7	4.1	100.0			

KruskalWallis検定

表7-1 専門能力の習得に関する意見(役だったこと)

		人数	割合
		人	%
この専門能力を身につけるのに最も役だったこと	看護師・保健師基礎教育	10	4.4
	大学院教育	0	0.0
	職場の現任研修	54	23.9
	実践経験	139	61.5
	その他	13	5.8
	複数回答者(3・4-3人,4・5-6人,3・4・5-1人)	10	4.4
その他内訳再掲	1.自己啓発・私費研修受講・自己学習	12	5.3
	2.現任研修・派遣研修・国内留学	4	1.8
	3.同僚や大学との共同研究	2	0.9
	4.現任研修を通じた実践の継続	1	0.4
	5.上司・同僚からの助言	1	0.4
	6.必要に応じ資格の取得	1	0.4
	7.報告書の伝達	1	0.4
上記の他に役だったもの		(複数回答)	
	看護師・保健師基礎教育	43	19.0
	大学院教育	4	1.8
	職場の現任研修	112	49.6
	実践経験	70	31.0
	その他	95	42.0
その他内訳再掲	1.職場外研修(国、県)	15	6.6
	2.自己学習、自己啓発、自己研鑽	14	6.2
	3.研修自主参加	8	3.5
	4.国立保健医療科学院研修	6	2.7
	5.自主的な学習会、研究会参加	5	2.2
	6.学会発表、論文	4	1.8
	7.行政以外の研修(看護協会、師長会等)	4	1.8
	8.派遣研修	4	1.8
	9.雑誌、書籍、案内書、インターネット	4	1.8
	10.研修	3	1.3
	11.調査研究(保健師同士、職場内)	3	1.3
	12.保健師の専門研修	2	0.9
	13.先進事例	2	0.9
	14.先輩、同僚を活動モデルとして学ぶ	2	0.9
	15.他部門の経験	2	0.9
	16.部下のいるポスト(転職等)	2	0.9
	17.大学、保健所研究機関からの助言	1	0.4
	18.学会および研修会の講師として業務をまとめたこと	1	0.4
	19.学会参加	1	0.4
	20.看護協会、先駆的活動交流ワークショップ	1	0.4
	21.看護師・保健師基礎教育前の基礎能力	1	0.4
	22.職場内研修	1	0.4
	23.地元大学との協同研究や学会発表のまとめなど	1	0.4
	24.周囲にいる職員の支援	1	0.4
	25.新規事業の企画・立案	1	0.4
	26.先駆的保健活動の研究	1	0.4
	27.先輩の助言・指導	1	0.4
	28.OJTなど	1	0.4
	29.専門以外の能力開発	1	0.4
	30.他職種との検討会や会議	1	0.4
	31.庁内会議への参加	1	0.4
	32.同業の仲間・友人	1	0.4
	33.日本看護協会先駆的活動交流推進事業海外視察(英国)	1	0.4
	34.放送大学	1	0.4

n=226

表7-2 専門能力の習得に関する意見(充実を要すること)

	人数	割合
	人	%
これらの専門能力を保健師が十分習得するために最も充実する必要があるもの		
看護師・保健師基礎教育	34	15.0
大学院教育	9	4.0
職場の現任研修	111	49.1
実践経験	29	12.8
その他	15	6.6
複数回答者(1・3-2人,1・5-1人,2・3-3人,2・4-1人,3・4-13人,3・5-2人,4・5-2人)	24	10.6
不明	4	1.8
その他内訳再掲		
1.職場で実践しながらの専門研修(計画から評価までの支援体制、定期的／必要時に学べる体制)	4	1.8
2.現任研修(本庁、特別区など)	3	1.3
3.自己学習、自己研鑽	3	1.3
4.派遣研修、県外研修	2	0.9
5.現場と教育機関の連携による卒後教育支援	2	0.9
6.実践経験を積んでいく際の、専門能力を発揮できるリーダーや指導者の存在(育成)	1	0.4
7.資格の更新制	1	0.4
8.様々な職種(特に上司)からの助言、指導	1	0.4
9.メカニズムを知り、系統立てて説明することができる能力を養うことができる教育内容	1	0.4
10.寄贈教育での基礎実習の充実	1	0.4
11.大学、保健所など専門家のアドバイス	1	0.4

n=226

表8 5つの専門能力の修得に最も役立つ出来事

専門能力の種類	記述内容
①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③住民の力量を高める能力、④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力	
1	地震の被災地に4泊5日で派遣された経験から、派遣先の住民の健康調査の結果を町の保健師に報告した時に、その人たちの家族状況、健康状態のことなどを町の保健師がよく知っていたことに驚かされた。データで地域の情報を把握することも必要だが、それよりも保健師の日常の活動場面を通して得られる生の情報を蓄積していくことも大切だと感じた。保健師が何かをする時にその対象となる人々の顔が浮かび上がってくることは企画のイメージをもつ時に大切であり、そういうところにいつも保健師が位置できていけるように仕事をしていくことの大切さを学んだ
1	仕事に対する姿勢が常に前向きな先輩、上司に新採の頃出会い、仕事を考える時の基準になっている。
1	介護の研修を行う職場に2年間勤務していた時、要介護者のQOL向上のために福祉用具を適切に導入することの重要性を学んだ。(住宅改修も同様)このことはこれまでの地域保健活動ではなかった視点であり、保健師(看護職)には必要な知識であり、技術であると思った。以上のことから、2年間の研究事業(県単独)を実施し、関係職種との連携と、事例への実践をしながら、①の能力について学ぶことができ、さらに②へと発展させることもできた。(しかし思うように事業は進展していない。)
1	地区活動の積み重ね。地区を持って、活動をきめ細かく完抱していくことを学んだことが役立っている。
1	保健医療科学院における長期研修を受講し、働き方を考える契機となった。
1	地域特対事業の実施で大学等にスーパーバイズに入ってもらい、実践的な事業展開や事業のまとめ・評価で検討を重ねたこと。
1	新任期に保健師の仕事、役割、支援について細かく教えられ、仕事の中で何を優先するべきかを教えられたことが今でも役立っている。
1	学校の基礎教育で、基本となる物を学び、職場の初任者教育や、現任教育により、職場の先輩、同僚、他職場の人、等からの学びで、一つずつ身につける。その最大の教材、資料は、住民との対応の事例であり、併に専門性と人間性向上の学びがあったことが、エネルギーとなった。
1	原点は看護師・保健師教育に培ってきたものだと思います
1	実際に健康危機状態がおきた時、保健所長がリーダーシップをとり、チームをつくったが、その中の一員となって動くことで対処方法・連携の取り方など学ぶことができた。
1	職場の現任教育の中で、ケースメソッド、グループワークをとり入れた、日々の事業や事例のふりかえりを通しての学び
1	直属の上司が常に行政の責任として行うべきことは何かを掲げ、保健師の活動について他の部署を含め全体的視野で考えていた。机上ではなく地区の現場のカンファレンスなどにも出向き、状況を把握し、次の企画につなげていた。公平、中立、地域特性、標準、普遍などについて、つねに考えさせられた。
1	①サービスの受け手とのやりとり。②所内での事例検討会(①を素材とした)→仲間からの関わり方の分析・指摘・助言。③所内での事例検討会、縦割り・個別事業のとらえ方を住民・地域の問題としてとらえ、個々の予算事業を連携させる解決策を生み出す地域の課題解決方法を学ぶこと。
1.2	No.1について。特定疾患(精神難病)の患者に対する在宅支援の経験において、上司が①地域資源の利用・開発②関係者との協議のすすめ方③職場の業務の調整を図ってくれたこと等により、経験年数の浅いときに対象者を支援できたという達成感を感じさせる配慮があった。No.2について。本庁において、事業の予算代において、関係者が理解できる根拠、資料の提示を上司の助言のもとに行っている経験
1.3	・保健所に同動した先輩保健師の助言、自主研修の呼びかけがあり、そこに参加することでその学びを現場にいかすことができた。・いろいろな職場を体験し、保健師がかに1人ということなどを体験し、周囲の人にきたえられた、学ばされたという感がある
1.3	健康危機管理や住民の主體的な健康づくりを担当する部署で、文献を読んだり研修会に参加したり、会議や実践を行うことによって多くを学んだ。
1.3	職場の先輩また同僚とともに地域活動をする中で住民のニーズや地域づくりなど地域でのさまざまなサービス、強力なメンバーを持つ人を把握すること。連携や協力体制の方法を学んだ。しかし、最近の住民の意識等の変化によりむずかしくなっている。
2	経験豊かな事務職と一緒に予算計上、補助金の申請等について一緒に作業を行い新規事業を行うことができた。
2	保健所と本庁を数回ローテーションした。本庁も異なる班に配属された。現場中心の活動が自分にとって本庁での仕事は苦労が多かったが、事務職や他の技術職の中で政策形成能力は得られたと思う
2	県庁勤務から学んだことが多かった。保健師にとって個人への対応も大切だが、その個の対応から集団、地域住民の健康問題に広げて考えるとき、政策創出の力が必要だと思う。県庁での仕事は2回目だが、予算、新規事業のたちあげ等、保健所で経験できないことを学べ、保健所で次に働く時色々な問題点をクリアする為施策化することも念頭に仕事ができるようになった。
2	6年目で保健センターから福祉職場に初めて異動した際、政策企画の仕事の一部に携わる機会を与えられた。「自分が現場で感じていた事を政策に反映させられる可能性がある」を実感できたことと、政策が決定していくステップを肌で感じられた事は、大変貴重な経験だった。
2	本庁に勤務し、事務職の中で仕事をする中で保健師に求められる能力や予算の取り方を学ぶ。また他課との連絡調整が円滑になった。
2	政策立案の基本である。予算獲得や要綱条例の作成、手順等を専門担当者から学ぶこと。業務遂行上、共通課題を持つ研究グループや同僚・先輩とのコミュニケーションから学び、気づくことができたこと。
2	ジョブローテーションとして本庁・保健所(企画調整・事業担当各部門)を経験したことで、政策や社会資源の創出についての能力がついて来た

専門能力の種類	記述内容
	①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③住民の力量を高める能力、④活動の必要性和成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
2	企画書の作成について研修を受講したことにより必要性や作成のポイントを学ぶことができた。また、実践することで、上司との合意形成に必要となる内容が明確になった。
2	県外で実施される保健師の研修会や研究会に参加した際、先進的な取り組みをしている事例の発表等聞き、事業展開の参考としました
2	上司のバックアップにより、新規事業の組み立て、実施、評価と一連のプロセスを体験させていただいた。実現したいと思うことを所内のコンセンサスを得ながら自分の描く方向性をkeepするための方法を上司から学んだ。
2	・国のモデル事業を活用し、所長のリーダーシップの下で、自分がやってみようと思ったことをみつけ、地域関係者と共働して、三年間でシステムを開発し、起動するまでのプロセスで得た能力は大きかった。職場の上司、多職種からの刺激、熱意から意欲がわき、Plan/Do/seeの展開技法が学べた。・本庁勤務においては、事務職の視点、行政システム全体を知り、行政能力の習得に役立つと体験として思う。
2	保健所にて国の特別事業を活用した事業に関わる中で、地域保健法をふまえた保健所の保健師活動のあり方を具体的に理解した。特に一緒に取り組む上司(保健師)や、他の所属の保健師(市町村)の姿勢から様々な事を学んだ。保健所が住民に一元的な直接的なサービスを提供していく時代から、広域的、専門的保健サービスの提供、企画調整機能、施策化、広域的専門的立場より市町村への支援の仕方等、具体的事業を通じて学べた。
2	本庁課に配属されて、国の動向や他都市の状況、予算の確保や他課との調整で多く学べた。
2	保健センターという専門性を発揮できる場で長く仕事をしていたが福祉へ異動になり、事務職ばかりの中で仕事をする中で予算や法律等多くの事を学んだ。またその中で自分の専門性を生かしたとえば家庭訪問や窓口での相談などそれまで以上に相手の立場で考えることができるようになったと思う
2	保健所・地域の病院・患者会と目的を持って協働する中で気づけなかった分野の知識の習得や体験をすることができ、先進的取り組みにつながった。困難ケースの取り組みをインフォーマルな社会資源とし、その後制度として確立していく過程を確認することから、常に創造する役割を担う保健師の専門性を学んだ。
2	①職場での同僚が多いことがとても有効。月に1回検討会を重ねることで健康づくり計画も策定でき共有財産となっている。(保健師5、栄1、ケアマネ1、看1、PT1、相談員1)他に障害福祉医療担当、高齢者福祉担当、介護保険担当とも同フロア。保健福祉医療の連絡会週1回、学校保育園との連携、国保係との連携。②大学(鳥太旧公衆衛生学、医動物教室)の助教授に助言を得られること。
2	管轄地域の社会資源の創出について、直属の上司の活動から学んだ。特に所属内外の関係職員との合意形成について、そのための段階的な打ち合わせや、資料作成・会議運営、プレゼンテーションの重要性について学び、行政保健師のダイナミックな活動に魅力を感じた。共に仕事をした保健師がエンパワーメントされた。
2	予算を持つことによってもいかに予算内で効果的に事業をしなければいけないか、財政難ゆえにいかにも社会資源を活用しなければいけないか、いつも思うようになった。
2	先輩保健師の活動から学んだことが大きかった。一緒に活動して事業の組み方、予算の取り方など多くを学んだ。住民に対する対応の仕方なども参考になり、よき相談相手だった。
2	以前におられた先輩保健師と一緒に仕事することにより、そのノウハウについて学ぶことが多かった。
2	県庁における政策立案 しかしこれは現場での実践があったから、政策立案し提案することができたと思う。
2	保健所長、課長、保健師長の指示と助言により、住民の要望を形にすることができた 行政政策の考え方については専門職(保健師)以外の事務職から学ぶことも大きかった。
2	職場の先輩(上司)からの学び一緒に活動することによって国や県のモデル事業、生命保険会社の研究事業費を活用した先駆的取り組み、保健、福祉、医療の連携のフルに活用した事業展開
2	事業を実施している中で、夢を抱いた障害者に出会ったことで、夢の実現をして役に立ちたいと努力したこと。周囲の上司や、予算の取り方など、そのときに担当者に恵まれ、事業の創設ができ、以後長期において継続した事業となり、その対象者とともに事業が継続できたこと。
2	保険所との共催事業や健康づくり計画を立てるときに学ぶことができた。
2	専門職である前にいち行政マンであります。事務吏員である上司から学ぶべき点が多くあると感じています。
2	・本庁で事業計画、関係機関調整等を行い、予算化した事業を実践評価するプロセスを体験したこと。・保健師だけでなく事務職等多職員との協議により、視野の拡大ができた事。
2	企画調整担当へ配属され、国の地方特別推進事業を利用し、事業の企画実践、報告書作り等中心になり翌年その一つが県の事業として取り上げられた事により、自身につながった。
2	(例)産業保健分野でリーダーポストを与えられ、部下に事務職の若手男性職員を抱えて4年間過ごした。法的根拠のおさえやポイントを押さえたプレゼンテーション、みえないものをみえるようにスキームを表示したり、個別のケアなど総合的に能力アップせざるを得ない経験をした。他から言われるというよりポストを与えられて必要に迫られ自ら開拓した能力アップかなと思う。上司(事務課長)説明も専門職として認めてくれるが故に”決断”する責務を感じたポストであった。
2	本庁勤務の折に、①政策アセスメントへの取り組み、②他部署で起こしている新たな事業を創り出すときの関係者によるワーキンググループでの検討などの場面に参加することで習得できた
2	実践経験として、先輩とおこなった活動。予算の取り方、他部署との連携の方法など、具体的に経験した。保健師が地域にいる誰かと連がるかタイミングやセンスのようなものを学べた。住民とも関係が近かった。
2	常に行政職(事務職)と同じ職場にいるため、計画策定や資料収集分析技法について一緒に学ぶことができた。保健師のみでなく、他の職種の手法が刺激になっている
2	入職当時の市町村保健師との活動 地域を見る訪問の方法を学習でき、また、市町村の種々事業にも、地区担当保健師として関わったことから、個々の健康課題をアセスメントし、市町村としての施策につなげる一連の過程を学ぶことができた。

専門能力の種類	記述内容
①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③住民の力量を高める能力、④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力	
2	職場の先輩が先駆的に行動する人で、従来男性社会であった行政の場を理論構築をしながら、保健師活動を周知してきた結果、政策に反映できるようになり、ポストの獲得につながった。保健活動の企画立案、予算の取り方等学ぶことが多くあった。
2	中央研修会等で他の市町村の取り組み状況をモデル事業の紹介を始め意見交換の中で学べた。又詳細の具体策については近隣の市町村県職の意見やアドバイスを参考にしている。
2	与えられた業務をすすめていくうえで、少し上の先輩に相談しながら実践の中で学んでいくことが多い。また、スーパーバイザー的な方の情報を得ることにより、必要時、相談したりしている。
2	庁内職場で事務職の係長のもとで働いた時に、行政マンとしての仕事の仕方を学ぶことができた。①区民の力を信じ、教えてもらい育ちあうこと。②ニーズを把握し政策を企画、予算編成すること。③関係機関との連携、調整し実施していくこと。他
2	市人事課の「政策形成研修」に参加し、グループワークで一つのテーマに沿って議論を重ねまとめ上げるという課程の中で事業を計画立案する手法を学んだこと賀その後の事業を展開する上で非常に参考になった
2	人事交流で、企画制作部企画課へ仕事をし、市全体の事業を見ることで多くのことを学べた
2	職場の上司から予算の上手な取り方・他職種への巻き込み方などを身近に見て教えてもらった
2	企画研修に参加した際、他衆の人たちと共に(保健所・市町村を含めて)自分の課題について政策化していく課程を学んだ事は有意義であった。目標設定の仕方や評価方法等、刺激を受けた
2	一人設置の期間が長く、当初は、公的な研修で基礎的な知識を学ばせていただきました。近隣の市町村の保健師さんと切磋琢磨しながら保健活動を定着させてこれと思っています。介護保険制度導入時に計画策定の担当をさせて頂き、その後、県の保健師さんで企画に積極的に総合的な計画策定の能力のある方に学ぶ機会があり、大変勉強させて頂きました
2	保健師の先輩の実践から刺激を受けたことだけではなく、他職種(事務職)も行政マンとして、仕事の示し方や、必要なことを事業化していく力などを、学びながら保健師としての視点を取り入れていく方向を知ることができた
2	職場の移動により、そこで働く先輩後輩から活動の方法を学ぶことができた。また、活動の展開方法を身につけることで他の関係者との連携方法のポイントなどが理解できた。
2	本庁勤務の中で事務職の方々政策づくり、事業化を進めている様子を見るにつけ、組織的対応、仕事のすすめ方が大変参考になった
2	福祉部門で従事していたときに、様々な施策の提案をするために、どのような資料により提示をしていくべきなのか。どういった根拠付けを示すことが有効なのか学ぶことができた。専門職としての保健師活動により把握できた健康課題について、どういった資料を提示していくことが有効なのか、まだまだ模索中である。
2.3	先輩保健師で要支援が必要なケースの意見をまとめて、自助グループのたち上げやフォローアップ健診の立ち上げ等に必要の関係機関の職員のまき込み方、予算かく保のための資料づくりなど学ぶことが多かった。
2.3	職場の先輩がロールモデルとなった
2.4	事業の企画・予算・調整等が主たる業務の部署への配属となり、市民の生活実態を施策に反映することができる。また、保健師業務の統括の役割を担い、人材育成にも着手することができる。
3	県が推進してきたコミュニティミーティングの手法を活用して、町の健康増進計画を作成したプロセスにおいて習得した。①手法についての講師からの細かな助言 ②市町保健師他、他職種との協働 ③住民及び実施者のエンパワーメントを実践活動の中で学んだ
3	地区診療から地区課題解決に対する取り組みとして、地域の健康づくり組織を育成・支援してきた。その中で住民と共に地区実態を把握し、共に考え主体的な地域づくりを支援する過程において、住民に学び、刺激を受け、保健師として育ったと思う。
3	職場の先輩のリーダーシップによることが大きかった。先駆的な保健活動について、国のモデル事情を取り入れ予算化し、保健医療福祉の連携に関する政策を事業化した。その際、周囲の仲間の説得、他職種、住民も巻き込んでいくなどの力量を目の当たりにし、学ぶことが大きかった。その先輩は、常に後輩の育成にも前向きで、保健師の専門性を高める研究を全面的にバックアップすると共に、自らも厚生科学研究事業にも取り組んでいた。
3	健康づくり対策の1つとして運動普及推進員を養成し(地域の運動を中心とした健康づくりを行うボランティア)地域の根付いた活動を推進していただくための支援を行っている。活動内容としてはウォーキング大会が主で他には体操教室、体力測定教室、健康講演会等を行っている。また年に2回の研修会も行っている。
3	実際に業務の中で、住民全体で行う健康づくり組織を育成したことで、住民の力量を高める能力が学習できた。(大学などの専門機関の助言を頂きながらの実践が効果的だと思う)
3	職場の先輩や地域の在宅介護支援センターの職員から住民組織や他職種の巻き込み方などを学んだ。
3	実践は、学校での学び、自己学習からよりよい援助へとその技術を高めようと努力しますが、1人では限界があります。そんな時、職場の先輩との助言や意見交換、他所属との交流ができる研修、研修における理論の学びからもう一度あらたな視点から実践をふりかえり、再度チャレンジしていくことで技術や目標が高まり、今まで仕事を続けられてこられたように思います。これに実践とまとめ評価する研究を加え、これらを継続することで徐々に習得してきたのだと思います。一言でいえば、職場内外のさまざまな保健、医療、福祉にたざさわる方々との交流でしょうか…
3	当時、地域担当制だった頃に先輩がリードして住民代表という組織と共に健康づくり活動(成人保健の地域リハビリ教室)をしたこと。そのことから別の保健師が全域に広めていってくれた。
3	民間の健康学習研修会に参加することにより、相手(住民)の土俵で考え活動することが体得でき、その方法は住民の力量を引き出し高める結果となった。
3	モデル事業により大学の先生から指導・助言を受けたり、実際的手法を学ぶことができた。
3	健康づくり教室参加者の中から、自主グループが生まれ、その活動の実践報告として、健康まつりの場を利用し、住民にアピールする機会を設定した。このような住民活動を目にし、保健師の仕事をしてよかったと満足感が得られたとき。

専門能力の種類	記述内容
①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③住民の力量を高める能力、④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力	
3	職場の上司や先輩、市町保健師の活動から学ぶことができた。地域住民のニーズの包括方法、関係者との連携方法、事業の展開方法、予算の取得等について学んだ。
3	健康増進計画を策定するにあたり1年間を看護職・医療職以外の専門家に導かれて、住民主導のものにした。
3	職場の上司が積極的な活動家であった。予算・効果・評価・目標設定が明確でしかも無駄の少ない事業展開をする人で学ぶ点が多かった。
3	保健所は広域的な立場で市町村への支援や研修等、協力体制があるがその保健所の保健師が県立大の協力や計画策定においてもいろんな情報を入力してくれ、住民主体、住民の力を以下に引き出すかをアドバイスしてくれた。
3	市民参加のワークショップ研修や参加事業の勉強会等への参加。他は日々の活動の中での住民との出会いやつながり。
3	いくら立派なことを指導しても住民がそのとおりに変容してくれなければ何もならないということは若い頃から常に考え、住民自らが行動をうつせる指導をしていきたいと考えていたが「健康日本21」および「健やか親子21」を手がけてゆく中でヘルスプロモーションの理念に基づいた健康づくりが如何に大切かよくわかった。具体的にはアンケート調査やそれぞれの年代に行ったグループインタビューをもとに調査研究し、評価を行い、委員である住民にもなぜそのようなことが必要かを根拠に基づいて見せ、説明することでかなり「健康づくり21」の普及が
3	職場にモデルとなる先輩がいて、住民活動と一緒に参加する中で、先輩からいろいろ教えていただいたこと。また、住民自体にも“若い保健師を自分たちの手で育てていく”という気持ちがあり、ずいぶんとお世話になりありがたかった。
3	同じ職種の人たちとの自主学習の継続
3	市町村との協働により、地域住民の主体性をひきだしながら、健康づくり計画を策定する。保健所保健師が住民との交流をとおし実践的に学ぶことができる。
3	患者さんから教わることの大切さ
3	コミュニケーションが希薄になる現代社会、地域医の代表者の協力の下、健康づくり推進協議会を設立し、共に運営した経験や、個人の健康づくりのための運動教室に参加していた住民に地域で運動推進してもらったため、指導者養成を行い運動人口の拡大を図った経験による
3	住民組織の主体的な地域づくり、健康づくりについての重要性を長期の研修の形で保健師活動の初期の頃に学ぶことができ、研修終了後に行政組織の中で地域組織づくり施策推進を実施できたこと
3	健康増進計画を立案するにあたり、住民代表の方を委員になっていただき、一緒に推行していった。
3	H8年に日本看護協会が主催する先駆的保健活動交流推進事業のワークショップ(コミュニティーミーティング)に応募して企画が採用された。その企画を実行する中で、看護協会のスタッフ、大学(看護系)の先生方との意見交換は、住民ニーズの把握、顕在化さらに施策化させる演習を学ぶことができ、住民活動を活性化し、主体的な活動に発展した。
3	自分の自治体で区民の自主的な活動を通じた健康づくりが始まったのは1985年です。この活動は「人づくり」「活動づくり」「交流の場作り」と位置づけ、区民同士でテーマを決めて主体的に行動することを通して健康づくりを進めるというもので、継続してきたものです。この活動がベースとなり2002(平成14年)年3月「健康〇〇21」行動計画を作成しました。この計画は主に「健康づくり推進員」と協働して区民の求める健康の状態とその実現のために区民が主体的に取り組めることを母子壮年期、高齢期について体系的に把握(PCM手法=住民参加型計画手法)した。その「区民の声」を「健康あだち21」の目標に反映した。健康づくりを区民と協働で「区民から区民へ」の合い言葉をもとに広げる活動外までも進められている。この中で、住民とともに仕事をしながら、学んだことは大きく足立区全体の財産である。
3	訪問で支援していた事例や日頃の業務について、先輩保健師から助言をもらったり、文献を紹介してもらったことで気づかされたことが多かった。先輩保健師の助言で忘れられないことは現在だけでなく将来を見通した支援、そのために必要なことはなぜ現在こういう状況にあるのか、予防策はなかったのか、傷の手当を教えるだけでなく傷を予防する手段をどう住民に力をつけてもらうか。地域への普及は。
3	精神障害者家族会の設立に向けて準備会からスタートし、市への働きかけ、地団体の(家族会)協力を得ながら、又、経験した保健師の助言もあり、無事設立に至った。そしてたまたま転勤先の保健所でも家族会設立の話題となり、前の職場での経験と上司の協力を得ながら、設立することができた。職種を越えて「家族会設立」の目標に向かった活動が印象的でした。
3	住民とともに歩む姿勢を地域で愛育を組織する時に学んだ。行政で働く保健師としては、どのような法令や要綱・要領等に基づき、業務をすすめているのか必ず根拠を明確にしておくこと。この2点は、大先輩から指導があったことがらである。①については訪問・面接等で本人・家族、又住民に出会い、そこで保健師として五感でその対象者を理解する現場主義の基本となっている。
3	健康日本21地方計画版の策定及び推進の担当となりその業務を通じて①～⑤の専門能力に関わる人との出会い、研修(自己学習含めて)の機会を得た。また行政組織の中で保健(健康)を視点においた「まちづくり」を庁内関係部署に拡げることができた。
3	県の保健師さんで、保健医療科学院でヘルスプロモーションを学んだ方がおり、その市が地域で地区組織の育成をしていく過程をみせていただいたこと。その方の学び方を教えていただいたことでヘルスプロモーション、エンパワーメントの基礎、考え方を学ぶことができた。
3	「健康づくり計画～とようらぐ～と健康21計画～」を県の支援を得て、4町が広域的に連携して策定した。その際スーパーバイザーとして民間業者指導者のサポートにより、職員が研修などにより学習しながら地域で実践することができた。理論だけではなく同時に実践することにより、その能力は身につくものと感じた。
3	住民と共に計画づくりを行う経験の中で、住民の本音、行政への思いを聞くことができることと、そのパワーに学ぶことが多かった。実体験を重ねることで、学問的なことが行動に移せると思う。
3	健康づくりのモデル事業で深く市民と保わる機会があった。教示型ではなく、市民と同じ目線で考え、行動するということが、具体的にどのようなことなのかを肌で感じ、市民がしゅ大敵に活動するための配慮と、少数ではなく、地域全体を広く動かす仕組みづくりを学ぶことができた。

専門能力の種類	記述内容
	①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③住民の力量を高める能力、④活動の必要性和成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
3	転倒予防教室において国のモデル事業を実施し、身に付いたと思う
3	保健師活動、ボランティア、食生活改善推進会、歩こう会、新たに養成し心の交流会(レクリエーション)を主に学んだ団体を単団体もしくは複数団体組み合わせて保健事業の企画、実施、反省会などを実施した。住民の立場になって主体的に参画されたことでその中からたくさん学ばせていただいた。
3	就職時、駐在制で若い保健師一人で担当地区を担う現状の中、月1～2回の研修会連絡会で先輩保健師から地域の活動方法について聞くことが楽しみでした。給料は県から、業務は市町村のものをこなしながら、割り切れない思いで過ごす中、生き生きとした活動成果を学ぶことで前進できたと思います。今は機構改革の中で事務能力が問われますが、新人時代に得た対人サービスの基本は貴重なものです。
3	職場の保健師だけでなく、地元の事務職の方と一緒に難病のグループづくりをしているとき、様々な視点からの意見が出たり、それに対応する患者の言葉、行動を見ながら、どの方向性にグループを育成していったらよいか学ぶことができた。又、国立保健医療科学院の1年コースで出会った仲間や先生などの刺激は大きかった。
3	職場の上司が、困ったときの相談相手で、事例への関わり、活動のまとめなど、考えさせる支援をしてくれたこと。特に事例への関わりは多くを学んだ(自主的な事例検討会への参加含む)
3	町保健師への派遣活動。保健師未設置町村への保健師派遣ではじめて保健師を受け入れる町役場の職員・町にいる保健師を受け入れていく住民との活動を通して、住民の身近での健康に関する知識、町での職員の保健に関する考え方の実態を把握していく中での事業計画(予算獲得)。実施の経験が常に基礎となりそのうえで研修が出かされていた。(継続的な研究・事例検討)
3	保健活動実施から小グループ活動につなげる。参加者の中からキーパーソンを見つけ、継続した活動にしていく
3	看護大学やヘルスプロモーション研究者等の指導や助言を受けながら実践的活動に取り組んで来たこと。
3	3の能力を学ぶのにいい機会があったので、ここではその出来事を書きますが、この機会だけで3の能力を習得できたとは思いません。それまで、流れがほぼ決まっている事業を実施することが良かったが、住民主体の健康な町づくりを主題に事業を行うことになった。私自身は主担当ではなかったが、担当した先輩が住民を動かそうと苦しみながら住民組織等へ働きかける様子を見て、住民参加促進の方法等地域づくりの方法を学んだ。
3	組織づくりに対する思いやその手法
3	地区健康づくりの重点事業を担当したとき、保健所内で担当課とチームを作って事業を推進するシステムがあったこと。各課の幅広い意見とネットワークを活用することで、住民の健康づくり活動を定着させることができた。また、上司からのアドバイスで地区の人材発掘のための各団体への依頼方法などを学ぶことができた。
3	自主グループの支援法に関して、特に核になる人物との接触、側面的支援の実際を上司の実践から学ぶことができた。
3	自分の実践してきた活動の中で学んできたことが多かった。
3.4	No.3についてはねたきり老人の実態調査を行い、その結果から、老人会等地域団体へ働きかけ、住民主体のねたきり予防活動を広げていった。中心になって行っていた職場の先輩と一緒に活動させてもらい、地域住民の巻き込み方、地域の実態を統計的にまとめ、地域へ返す方法など多くのことを学んだ。しかし、同じように、自分が後輩の育成が出来ていないことを思い知っている。
4	保健医療科学院の公衆衛生看護管理コースにて公衆衛生看護における評価について学んだ。保健事業の取り組みから評価までの過程を講義と実習から多くのことを学べた。また実際に職場でシートを活用し目的評価の実践ができた。現任教育にも利用できた。
4	保健所の企画調整部門において、総務企画課という事務が主体の課に籍をおき、専門職の主体の他課と保健所継続的な(各課に係る)事業展開を行う中で、企画調整能力を養うことができたと思われる。
4	①研究活動 ②保健所長がエビデンスについて強化したこと
4	実際に職場で入手できる資料をまとめ、評価や政策に活用している先輩がいた。またその過程に意図的に若手を参加させ、体験しながら学び、考える機会を作っていた
4	本庁の基幹課に勤務した際、周囲のほとんどが行政職であり事業の企画の際に必要な性を説明することに苦労したが、その職場で多くのことを教えられたように感じる。保健師同士だと説明しなくても話が通じ、自分のテクニックがないことに気づかないでいた
4	保健所の保健師長を中心に、保健師全体が業務に関して毎年学会などで発表するなど、研究的に実務をまとめる努力をしていたことがあり、業務の整理やまとめていくのに役だった。また、所長の理解があり、協力的であったことも影響している。
4	自分が職場の中で専門家として仕事を期待され、答えようとするときに、自分で学んでいけなかつたと思う。
4	実務の中でその年代によって発表するまとめをする時上司、先輩の指導が適切であった。
4	一つの事例から学べたことを保健師全体に共有する機会を作り、他者から学ぶことができた。また、個別事例→集団への支援へと事業を発展→それに関連した他の事業とを組み立てる。その中で住民の健康に貢献したいという強い熱意と刺激を受けた。
4	保健医療科学院の「看護管理コース」1ヶ月の研修で、その中の研修生が実践活動されていて、それを結果として求め、地域住民にかえし地域住民を動かしていた。研修を終えて現実に戻ると、職場での意識の温度差もあり、その人を講師で向かえ講演していただきました。今でも問題解決困難時はSOSを送っています。
4	地域の活動者(ボランティアグループ、地区社協、NPO団体など)の人と一緒に地域づくりについて検討会をしたり、活動を共にしたときに住民への動機づけや人材育成、支えあい、予防活動などへの手法について刺激を受け、参考にさせてもらいたいことがたくさんあった。
4	業務研究や発表会や学会等への発表に向けて 研究的視点で取り組み、まとめることにより、活動の振り返りができた。

専門能力の種類	記述内容
	①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③住民の力量を高める能力、④活動の必要性和成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力
4	上司が組織的に取り組む体制づくりが効率的であった
4	新規事業に取り組む時、上司がセンスのある方で、仕事への熱意もあり常に刺激を受けていた。誰のために、何のために、どんな方法で取り組むのか…やりとりの中で学ぶことが多かった。その活動の方向性について、関心をもち、見守ってくれることが意欲、自信につながっていった。
4	保健所以外の組織(本庁)で事業化、予算化を担当したことにより習得できた。
4	種々の検討委員会や策定委員会等に参加させていただく事により多くの方々の多方面からの意見を前にして、保健師活動を考える機会をもらったこと。
4	住民と接する中でどのような健康課題がありそれを具体的な活動につなげるために先輩保健師や上司にアドバイスをもらいながら計画ができた事が良かった。自分の能力をどのように育てていけるか周囲の人育ての体制が整備されていかなければと思う。
4	保健計画の作成で、保健所に支援を頂いた。その時に、業務整理を兼ねた実践的な計画書を作る過程におき、考え方や人への見せ方、目標設定等につき学べた。
4	先進事例からの学びが多い
4	研修の実践報告の中で、同じく県の保健師の先輩が住民・市町村・職場内の他職種などと一緒に保健計画や事業の評価計画に取り組んだ話を聞いた。改めて評価の必要性を実感すると共に、その取り組みに感銘を受けた。その先輩ほどの部署に配属されても成果の出せる仕事をしており、仕事の企画評価など、とても参考になっている
4	過去に研修先の先輩(課長補佐)が、住民と共に活動し、どんな小さなことでも行政組織の報告し、PRし、見せる活動をしていた。先を見て業務を実施していた
4	健康日本21の地方版の作成、市町村派遣による母子保健事業及び本庁におけるたばこ対策の推進などにつかわることで、地区診断、ニーズの把握、活動の根拠の提示、評価指標の明確化、事業評価等の重要性について学ぶことができた。
4	時間外の研修、定期的に研修に参加し、いろんな職種の意見夜行流を通じて研鑽を積むことができた。現在保健師の活動についての指導に役立っている。
4.2	4)に対して:新任期から中堅前期にかけて量をたくさん実践しながら、アセスメント・企画・実践・評価を繰り返したこと。2)に対して:国・県のモデル事業や所属の研究事業を主体的に実践したこと。
4.5	受身ではない前向きな姿勢を常に先輩が示し、後輩が団結することが大切(出来事ではないですが…)
5	・新人の頃にハイリスクのケースを担当したとき、上司がそのケースについては事業よりも優先してかわるよう敢えて配慮してくださり、ケース処遇にあたり専門性の高い機関からの協力も得られ研究的に取り組めたこと。・はじめて精神担当になったとき先輩の精神保健福祉士がハイリスクケースと一緒に担当し、訪問や面接など、同じ立場に立って処遇を検討できたこと
5	就職5年目に機会を得た保健医療科学院での1年間の研修は、研究的とくみによる専門性の追及、またカリキュラムの中で、事例検討、グループワークなど、5の能力に限らず、公衆衛生を専門的に深く学ぶことができた。各地から参加している研修生との意見交換(交流?)も大きな刺激であった。
5	介護支援専門員の養成、指導に関わっていた時、指導者からの助言で学んだことが多くありました。アセスメント能力、マネジメント能力の習得については、指導者から受けた助言を基に実践し、実践したことへの助言を受けるとい、実践活動を通じてのサポートは効果的であったと思います。また同じ仲間との定期的な情報交換や学習会は、日頃の疑問を解消するためにも効果的でした。
5	先輩保健師の面接技法を健康相談、健康教育、基本検診時の問いかけ方や説明の仕方の中から学ぶことが多かった。
5	保健所と市町村との所属を越えた協同研究で保健師活動の評価について、考える機会を持つことができ、「保健師」としてのアイデンティティ確立や、現任教員必要性を考えさせられたこと。
5	職場の上司や先輩から、保健師として、能力や専門性を高めること、社会的地位の向上のために活動することなどマインドの面で大いに影響を受けた。
5	尊敬し、モデルとなる先輩との出会い、その仲間と作った「事例検討会」の場。25年以上及びそこで出会った人々と、こうはいからの刺激など…学会発表やまとめの作業を通して、自分のかかわりや仕事を振り返る機会がもてた。仕事の内容や、求められることに変化があっても基本的に保健師が大事にしてきたこと、することに変化はないと感じている
5	(どの能力と言われると、決めかねるが、敢えて)県保健師として働く中で、県保健師の協議会が10年前に設立され仲間の意見を聞いて、学んできたところは大きい。
5	一つの事業(区内で初めて実施された)に取り組んだ際、雇い上げ医師の適確な指導と、夜間の連携を含めた勉強会に参加することで学会発表のまとめや、事業推進の自身をつけることができた。
5	定期的にスーパービジョンを受けるために研修会に参加したり個人契約によるスーパービジョンをうける機会があった。
5	職場において上司が保健師業務に熱心に取り組む、日常の業務内容をテーマとしてスーパーバイザーを得て、研修(自主研修も含)を実施し、活動展開ができていった。保健師自らが課題解決へとり組むプロセスは、地域が変わり、やりがいを持って、業務にのぞむことが出来た。
5	職場外の先輩との出会い(事例検討会)により、実践活動の検証方法を学び、専門性の確立、開発の研究、発表の機会を提供してもらったなど、スーパーバイズ、エンパワメントしてもらった。
5	第2次国民健康づくり運動で「運動の普及」の視点が入り、健康運動指導士の育成が行われ、第1期生として40日間の研修を受け資格を取得した。健康づくりのための運動の普及について市町保健師、地区組織リーダー等への教育と師長の事業での実践等を通じ、県の運動実践教室の創出につながった。この運動実践教室の実施の中で運動の効果について様々検証でき運動普及の推進に投げられた。

専門能力の種類	記述内容
①住民の健康・幸福の公平を護る能力、②政策や社会資源を創出する能力、③住民の力量を高める能力、④活動の必要性と成果を見せる能力、⑤専門性を確立・開発する能力	
2. 3. 4	②の能力:先輩同僚とチームで事業実践する中で一人ではできなかった活動の展開ができた。(事業内容の広がり、事業をまとめるアイデア等々)③の能力:先進地事例報告集を見たり実際に視察することで刺激を受け、それが次のステップへの動機付けとなり、さらに実践を通して住民から学ぶことも多かったように思う。④の能力:実際に自分が体験を重ねることが重要と思う。
1. 2. 3. 4. 5	1~5全ての能力について。複数の計画の策定や進行管理に直接携わることで、多方面からの助言者を得ることができ、地域の実情(含 保健統計分析、事業分析)の把握や課題を整理し、実践にうつせるようになった。また計画策定手続を行う中で、事務的能力やプレゼン能力を高める訓練もでき、進行管理ではplan→do→seeの視点を常に意識できるようになった。
指定なし	事務的ポストについたことで、行政能力が身につきました。これからの行政に働く保健師は専門性を生かした行政マンが求められます。
指定なし	1, 2, 3については先輩の仕事に影響をうけることが多かった。4については上司や事務の方から教えてもらった。
指定なし	保健師が祖教育で学んだことを実践の場で保健師業務を担当し、技術獲得に努めてきたが、行政保健師として、公正・公平性を追求し、政策能力を高めることができたのは、ポストとしての位置づけがあり、かつ、事務職の上司、同僚からの指摘や指示を得て、専門能力を高めることにつながったと考える。
指定なし	4, 5→保健所のみではなく他部署に勤務したこと。毎日を流されることなく自己学習も含めあきらめることなく業務に取り組んだ。2→政策や資源の創出ができる部署に配属になり施策化を支援してくれた関係者(官、民間問わず)がいたこと
指定なし	No.3の能力について。家庭訪問や健康相談など個別支援の体験を積んだこと、その実践について、上司や先輩から助言をもらったことなどが、能力の向上につながった。No.2の能力について。職場内で先輩が実践する活動(課別指導～地区の課題の明確化～事業化)に関わることで、具体的な方法を学べた。
指定なし	福祉や企画等の他部門での経験。民間での経験。
指定なし	3・4・5について。初めて勤務した保健所で、学区での地区活動や研究を通じて、学ぶことができた。
指定なし	以前受講した地域ケアのコーディネーション研修は全国から多くの、とても意欲的な保健師が集まり、研修内容とあわせ、各自治体での取り組みも参考になり、また良い刺激を受けた
指定なし	県や市町村の周囲の保健所より事業のあり方、進め方を学ぶことは大きかった。刺激を受けたことは某市民センターで開催された市福祉保健関係局と地域関係者、保健所との定例会議で地区内での問題点や解決に向け取り組んだことの報告を通じ、協同し合っって事業を行うことで解決できる力の大きさ、住民の生の声を聴き責任を果たす立場にある自覚を感じ得たことが非常に学びが多く意欲につながった。
指定なし	1人体制の中での活動であったため保健所の研修1ヶ月(新任者)目が大変勉強になった。
指定なし	人事交流で県の中堅保健師の方と仕事ができることから学んだことが大きい。住民さんへの対応や他機関とのつながり方、予算のこと、すべてにおいて学べた。大きい組織を経験している方だと、行政としてどうするべきか事務などすべてのことについて学べると思う。
指定なし	国や県のモデル事業の活用
指定なし	生活改善の動機づけ、効果的な集団教育のあり方、事業評価については大学の先生と共同研究を進める中で刺激を受け学んだことが多い。保健師以外の職種の意見を聞く機会が役だった。また、学会発表を通じ、全国各地の情報を得る機会も重要である。
指定なし	2について、職場の先輩及び保健医療科学院を出た同僚と共に、大学公衆衛生教室協力の下、独居老人の調査、寝たきり老人の調査を行い、結果説明会を開催し、H.C、町、社協、老人ホームが共働して老人デイケアを立ち上げ、実践できたことにより、事業の政策～評価までの一連のプロセスを学ぶことができた。先輩の人をまとめ動かす能力に近づける心がけている。3について、精神障害者家族会支援、共同作業所の立ち上げに関わり、活動的な上司に恵まれ(住民のためには積極的に動くことをモットーとした。)刺激を受けた。
指定なし	職場に指導してくれる先輩はいなかった。したがって「予算のとおり方」どころか「予算書の読み方」からすべて本をよみながら、又は、事務職に質問しながら一つずつ学んだ。”能力の習得”は専ら自分でやってみること。
指定なし	2の能力について。職場の先輩がとてもすてきな人で、その人の活動から学んだことが大きかった。身近で一緒に活動させてもらって、国や県のモデル事業の活用、予算のとおり方、いろいろな職種の巻き込み方など、多くのことを学べた。また、その先輩は、目標設定や評価方法も明確で、住民の健康に貢献したいという熱意もあり、いつも刺激を受けていた。
指定なし	(No.2,3)について:行政の中で策定される各種の計画書策定にたずさわること、地域をいろんな角度で見ることができるとともに、多職種からの意見を聞くことができ、企画力を養うことができた。また、計画策定のプロセスの中で住民の声を聞く機会も多く、住民参加のあり方、住民組織との協力関係など、住民の主体的な動き知り、地域活動の社会資源を知ることができ、自分自身の刺激となった。(No.4,5)について:時間外に、同僚同士で学びあうため学習会を開催している。学習会の企画、運営を自分たちで行うことにより、研修計画、企画、運営などの学びになっている。また、職員研修所により自主研究グループ支援制度を活用し、講師料の補助を受けている。保健師同士の交流も図れ、活性化に役立っている。
指定なし	看護教育実習や保健師教育の実習でその比較ができたこと(臨床看護と公衆衛生看護の違い)
指定なし	職場に専門職が保健師一人の時、他の職場の先輩保健師より専門職と認められるためには、日々の自己学習が大切であることを学んだ。
指定なし	歴代の上司(保健師)や所長等から様々な能力の見本を示してもらった。しかし同じ手本を示されても感じ方により(得る能力)身につけるか否かが大きく違ってくると思った。(同僚を見ていて)
指定なし	自己研鑽のみ

表9 別刷表2に記した以外に必要と考える学習内容

①住民の健康・幸福の公平を護る能力	件数
健康危機管理に備えた平時からの体制整備	3
危機管理組織の役割、育成	1
危機管理についての過去の事例学習	1
児童虐待、高齢者虐待の予防	1
社会病理を早期に発見・予防・解決する手段に関すること	1
情報の収集、分析に関すること	1
個人情報保護に関すること	2
行政の役割と他機関との連携に関すること	1
人間の生き方に関する幅広い知識	1
なぜこの仕事をするのかという根源的な問いかけをし、深めること。	1
住民とのパートナーシップ	1
住民自らの選択	1
ヘルスコミュニケーション	1
障害施設などでの勤務	1
職場の事例対応の中でアドバイス	1
フィールドワーク	1
シミュレーション	1
②政策や社会資源を創出する能力	
行政職員として研修	1
企画力、プロポーザルの書き方	1
他自治体の先進的な部分を取り入れる能力	1
抽出した健康課題を整理する方法に関すること	1
適切な目標と評価、期限が明確な政策の立案	1
具体的には資料化。プレゼンテーション能力は求められている	1
官と民の役割(分担)、計画策定	1
国家財政と地方財政のしくみ	1
社会経済等の機構や動向に関すること	1
法・法令・例規等の基礎理解	2
保健医療、福祉政策の動向、政策、財政に関する基礎知識	1
政策に対する意見	1
地方分権に関すること	1
(本庁勤務が必要)政策策定に係部署で実務経験をやる。	1
保健セクション以外への人事異動による経験	1
行政の中の保健職場以外での経験(企画等)	1
住民のニーズを把握する方法に関すること	1
個→地域→全体を視る力を育てる	1
ケアコーディネーション	1
ヘルスコミュニケーション	1
地区活動・区民との関わり	1
③住民の力量を高める能力	
基本的な対人援助技術の習得	1
住民の生活、家族単位で見る視点	1
住民の声なき声を聞くトレーニング	1
住民との面接技術を高める学習	1
住民ニーズを把握するためのコミュニケーション能力に関すること	1
ヘルスコミュニケーション	1
コミュニティーエンパワーメント	1
住民力量を高める方法(エンパワーメント等)について	1
地域づくりの考え方を住民にも伝えていく	1
住民の力を使うために、地域に入り込めること	1
組織育成	1
実践あるのみ。力量形成の評価に関すること。	1
住民の学習活動を補償する	1
行動変容の方法論	1
地域状況の確認 ヘルスプロモーション	1
対象の把握で、所得と健康、経済と健康など	1
地区診断による地域の人材発見とネットワーク状況の把握	1

④活動の必要性と成果を見せる能力

健康課題をどうとらえるか、判断に関すること	1
Plan/Do/See/Action	1
企画書の作成	1
法・法令・例規等の基礎理解	1
法的に根拠のおさえ方に関すること	1
データ分析力	1
毎年の事業等のまとめで効果判定・行政評価	1
これらの専門研修必要。説明責任の対象。	1
ヘルスコミュニケーション	1
調整能力	1
経済効果等他分野とのコラボレーションの方法	1

⑤専門性を確立・開発する能力

自己啓発に関すること	1
職場内でのOJT体制の確立(レベルに応じたもの)	1
経験を蓄積し、科学にすること	1
自分を知ること 振り返る事 事例検討など	1
保健師としての働きかけ	1
課題解決のための問題の分析に関すること	1
ヘルスコミュニケーション	1
保健師自身の人格、人間性の向上、豊かな感性の形成に関すること。	1
感性をみがく	1

表10 専門能力を習得するために効果的と思う学習方法（5つ以内で選択）

学習方法	の住 公民 平の 健康 を譲 る・ 幸福 能力	施 策や 創出 する 社会 資源 力を	住 民の 力量 を高め る能力	活 果動 の必要 性を 高める 能力	専 門性 を確 立する 能力	の住 公民 平の 健康 を譲 る・ 幸福 能力	施 策や 創出 する 社会 資源 力を	住 民の 力量 を高め る能力	活 果動 の必要 性を 高める 能力	専 門性 を確 立する 能力
講義					人					%
1.講義受講による学習	94	69	47	77	69	47.2	34.8	23.6	39.1	34.2
Off-Jtの参加型体験学習										
2.ケースメソッド	84	69	33	42	46	42.2	34.8	16.6	21.3	22.8
3.ケーススタディ	79	25	48	29	52	39.7	12.6	24.1	14.7	25.7
4.語り部やドキュメントビデオによる疑似体験	32	14	28	15	11	16.1	7.1	14.1	7.6	5.4
5.シミュレーション	87	24	17	25	14	43.7	12.1	8.5	12.7	6.9
6.研修ゲーム										
ビジネスゲーム	11	27	10	15	1	5.5	13.6	5.0	7.6	0.5
7.ディベート	11	48	9	41	14	5.5	24.2	4.5	20.8	6.9
8.ブレイン・ストーミング	20	101	58	22	23	10.1	51.0	29.1	11.2	11.4
9.ロール・プレイ	18	11	58	18	16	9.0	5.6	29.1	9.1	7.9
10.演劇	3	0	16	4	0	1.5	0.0	8.0	2.0	0.0
11.グループワーク										
小集団学習	42	58	91	39	46	21.1	29.3	45.7	19.8	22.8
12.ワークショップ										
フォーラム・パネル討議	39	42	70	44	30	19.6	21.2	35.2	22.3	14.9
13.視察・見学	23	33	49	8	8	11.6	16.7	24.6	4.1	4.0
OJTの参加型体験学習										
14.職場内研修(OJT)	44	51	44	50	65	22.1	25.8	22.1	25.4	32.2
15.参加型アクションリサーチ	18	34	41	67	52	9.0	17.2	20.6	34.0	25.7
16.クリニカルスーパービジョン	14	38	8	27	21	7.0	19.2	4.0	13.7	10.4
17.メンタリング	14	19	21	31	42	7.0	9.6	10.6	15.7	20.8
18.プリセプターシップ	20	10	19	21	49	10.1	5.1	9.5	10.7	24.3
19.ピア・サポート	13	5	23	16	38	6.5	2.5	11.6	8.1	18.8
自己学習										
20.リフレクティブ・ダイアリー	9	4	6	7	29	4.5	2.0	3.0	3.6	14.4
21.自習	6	10	7	13	25	3.0	5.1	3.5	6.6	12.4
22.研修会、研究会	16	22	15	39	64	8.0	11.1	7.5	19.8	31.7
23.大学院	10	7	6	25	53	5.0	3.5	3.0	12.7	26.2
	707	717	724	675	768	n=199	n=198	n=199	n=197	n=202
再掲										
①講義に選択あり	95	69	48	77	69	47.7	34.8	24.1	39.1	34.2
②Off-Jtの参加型体験学習に選択あり	182	184	187	161	141	91.5	92.9	94.0	81.7	69.8
③OJTの参加型体験学習に選択あり	82	108	101	132	144	41.2	54.5	50.8	67.0	71.3
④自己学習に選択あり	32	35	26	63	113	16.1	17.7	13.1	32.0	55.9
① に選択あり(以下同)	3	0	1	1	2	1.5	0.0	0.5	0.5	1.0
②	52	48	65	32	17	26.1	24.2	32.7	16.2	8.4
③	6	6	5	9	12	3.0	3.0	2.5	4.6	5.9
④	2	1	2	2	7	1.0	0.5	1.0	1.0	3.5
①②	47	24	22	16	10	23.6	12.1	11.1	8.1	5.0
①③	3	3	2	8	4	1.5	1.5	1.0	4.1	2.0
①④	0	1	0	0	3	0.0	0.5	0.0	0.0	1.5
②③	32	53	61	41	25	16.1	26.8	30.7	20.8	12.4
②④	3	9	5	6	9	1.5	4.5	2.5	3.0	4.5
③④	1	2	1	9	27	0.5	1.0	0.5	4.6	13.4
①②③	24	29	17	27	19	12.1	14.6	8.5	13.7	9.4
①②④	10	7	3	8	10	5.0	3.5	1.5	4.1	5.0
①③④	2	1	1	7	6	1.0	0.5	0.5	3.6	3.0
②③④	8	10	12	21	36	4.0	5.1	6.0	10.7	17.8
①②③④	6	4	2	10	15	3.0	2.0	1.0	5.1	7.4
	n=199	n=198	n=199	n=197	n=202					